

UNAMAS レーベルがドルビーアトモス・ミックスの 10 タイトルを Amazon Music HD で配信

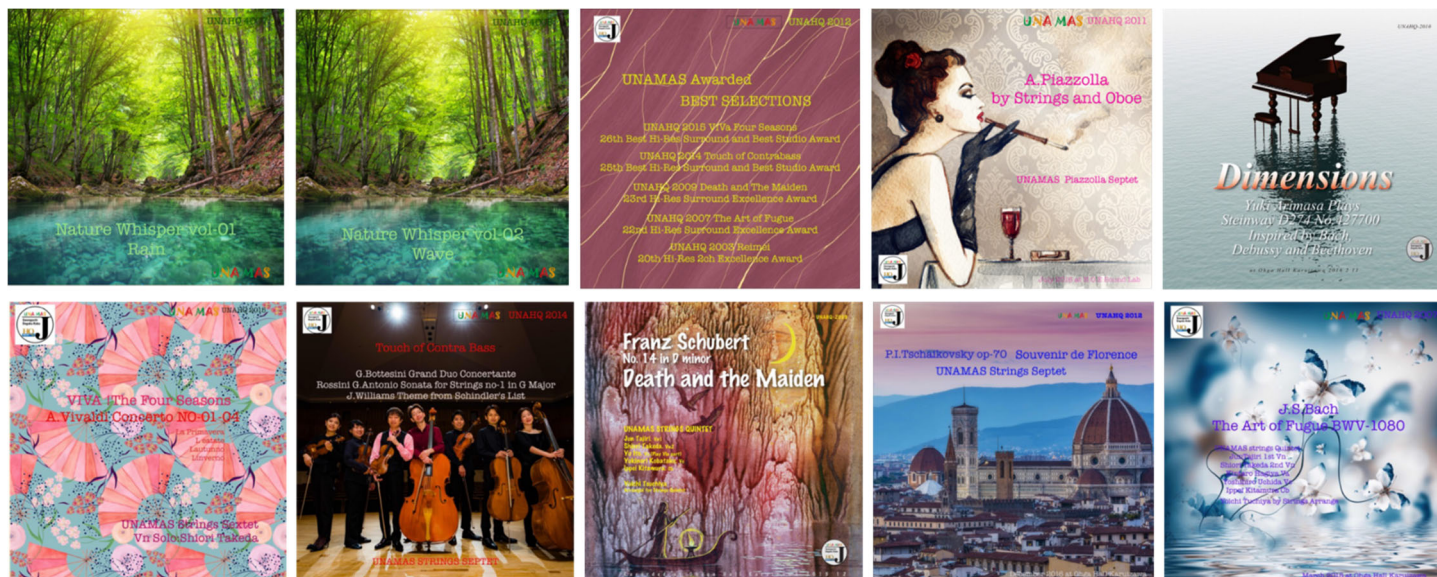
UNAMAS

Nothing out of it
Nothing to it

Dolby ATMOS

UNAMAS レーベルは 2014 年から 11.1ch の制作に取り組んでこれまで発表してきた 11.1ch イマーシブオーディオアルバム（クラシック/ジャズ/自然音録音など）18 タイトルの中から、今回第一弾として 10 タイトルを「Dolby Atmos（ドルビーアトモス）」フォーマットで Amazon Music HD にて 9 月末よりリリースする。

2007 年設立以来、ブティック・レーベルとしてハイレゾ・サラウンド音楽を意欲的に制作しこれまで日本プロ音楽録音賞を 6 度受賞している UNAMAS レーベルの「Mick Sawaguchi」代表は、「Immersive Audio の魅力と音楽性をどのような形で一般ユーザーに届けるべきかを検討した結果、多くの対応製品が市場にある「Dolby Atmos（ドルビーアトモス）」フォーマットでリリースする事にしました。」とコメントしている。



【ドルビーアトモス・ミックスの 10 タイトル】

- ・『The Art of Fugue UNAMAS FUGUE QUINTET』（UNAHQ2007）
- ・『Franz Schubert No.14 in D minor -Death and the Maiden』（UNAHQ2009）
- ・『Dimensions』（UNAHQ2010）
- ・『A.Piazzolla by Strings. Oboe UNAMAS Piazzolla Septet』（UNAHQ2011）
- ・『P.I Tchaikovsky op-70 Souvenir de Florence』（UNAHQ2012）
- ・『The Touch of Contrabass』（UNAHQ2014）
- ・『Viva! Four Seasons-A. Vivaldi Concert NO-1-4』（UNAHQ2015）
- ・『UNAMAS Awarded Best』（UNAHQ2021）
- ・『Nature Whisper-Rain Mick Sawaguchi』（UNAHQ4007）
- ・『Nature Whisper-Wave Mick Sawaguchi』（UNAHQ4008）

UNAMAS レーベル Web サイト：<https://unamas-label-jp.net/>

【各アルバム紹介】

UNAHQ 2007 The Art of Fugue UNAMAS FUGUE QUINTET

J.S.バッハの「フーガの技法」は、バッハ最後の作品とされ作曲時期は 1742~1749 年の間とされている。多様な調で構成するのではなく単一調で、異なる対位法や主題を駆使し、半音階やシンコペーションといった表現も使われている。各楽器を独立して演奏するには、そのタイミングやバランスに高度な技量が求められる難曲を Immersive Audio 表現にふさわしく Cb を加えた新たなアレンジで制作しホールトーンよりも個々の楽器の初期反射音用のハイト・チャンネルで捉えている。

UNAHQ 2009 Franz Schubert No. 14 in D minor -Death and the Maiden

UNAMAS strings Quintet

シューベルト第 14 作目にして晩年の名曲と言われる「Death and Maiden」

本楽曲の持つドラマ性とダイナミクスを活かすべくビオラパートをチェロに変更し Vc 2 台として V11 V12 Vc1 Vc2 Cb という編成にアレンジ。

このため 5 人のアーティストには円周配置の上でサークルの中心に配置した 5 本のメインマイク Spider Tree で豊かな共鳴音を捉えハイト・マイク 4 本でホールの没入感を表現。

UNAHQ 2010 Dimensions

Yuki Arimasa Play Steinway D274 NO 427700 Inspired by Bach/Debussy and Beethoven

Yuki Arimasa

大賀ホールの Sternway Hamburg のピアノと共鳴するすばらしい響きを活かすために Jazz でありながら、クラシックの要素も取り入れたオリジナルな演奏で構成。そのために取り上げた主旋律は、Bach, Debussy, Beethoven など。これらのテーマを借りて、そのあとは、自由なインプロビゼーションで進行するという Jazz 演奏と同じ手法でスコアも、リハーサルもない、まさにその場でしか実現しないテンションと大賀ホールの美しい空間再現をピアノソロで捉えました。

UNAHQ 2011 A.Piazzolla by Strings. Oboe UNAMAS Piazzolla Septet

2016 年に、Astor Piazzolla 生誕 95 周年を迎えたタイミングでオーボエを加えて Strings Septet にアレンジを実施。これまでの大賀ホールの豊かな響きとは異なる力つよさを意図的に千葉の日本音響エンジニアリング AGS Studio にて制作。M-01 M-02 M-07 でリードを演奏する 22 歳の新鋭オーボエ奏者荒木奏美と M-04 で縦横無尽の Vn ソロを展開する UNAMAS クラシックシリーズのキーメンバー竹田詩織の演奏は必聴と言えます。

UNAHQ 2012 P.I Tchaikovsky op-70 Souvenir de Florence

UNAMAS Strings Octet

オーケストラ演奏されることも多い曲だが、チャイコフスキーはオーケストレーションをコンパクトにまとめたシンフォニーのように聞かれることを好まず、「弦楽器 6 声独立して且つ同時に等質となる対位法音楽」を強く意識していた。UNAMAS Label は作曲家の意図を汲んで Vn1/Vn2/Va1/Va2/Vc1/Vc2 の各構成としさらにコントラバスを加えて低音域補強を狙っている。室内乐的演奏の密度を活かしながら、音の厚みでも引けを取らない音楽を目指したものだ。

UNAHQ 2014 The Touch of Contrabass

UNAMAS Strings Septet

「イタリア」と「コントラバス」がキーワード。イタリアのバロック期のコントラバスの名手、ジョバンニ・ボッテ

シーニの「ヴァイオリン&コントラバス+5人の弦楽奏者によるグランデュオ・コンチェルタンテ」、ヴァイオリン2・チェロ1・コントラバス1の編成によるロッシーニの弦楽ソナタ第1番ト長調、そしてスピルバーグ監督の名作「シンドラーのリストのメインテーマ」をコントラバス独奏で---という、意欲的な選曲。

アルバムのコンセプトは、「クラシックの楽器の果たす役割の中でもコントラバスは、常に脇役という楽曲が多いがUNAMAS Labelは、低域を重視したアルバム制作を統一したコンセプトに掲げ本作では、コントラバスをソロ楽器としてフィーチャーし大賀ホールの豊かな響きとコントラバスの持つ繊細かつ、低域の迫力を追求した意欲作である」

UNAHQ 2015 Viva! Four Seasons-A. Vivaldi Concert NO-1-4

UNAMAS Strings Sextet

「Four Seasons」でスタートしたクラシック・アルバム制作に新たな味を加えてみたいと検討し今回はソロパートをVnで単独演奏とし弦楽5重奏+パイプオルガンという編成のスコアのパイプオルガン・パートをコントラバスで演奏する弦楽6重奏で制作。UNAMAS Labelの特徴の一つである低域成分の重視を今回もコントラバスによって表現しVn竹田詩織の感性豊かなソロデビューアルバムです。

UNAHQ 2021 UNAMAS Awarded Best

Various

UNAMAS 作品の中から日本プロ音楽録音賞受賞作を収録。最新の Immersive Audio の粋を集めたコンピレーションアルバムです。

Jun Fukamachi 『黎明 (Reimei)』 (2012年)

UNAMAS Fugue Quintet 『The Art of Fugue』 (2015年)

UNAMAS Strings Quintet 『Death and the Maiden』 (2016年)

UNAMAS Strings Quartet 『Touch of Contra Bass』 (2018年)

UNAMAS Strings Sextet 『ViVa The Four Seasons』 (2019年)

UNAHQ 4007 Nature Whisper-Rain Mick Sawaguchi

私たちは自然の一部として生きており、心拍、血圧、呼吸に至るまですべてが規則性持っているが、不規則性の「1/f ゆらぎ」を自らが刻んでいる。そのため、これら外部の自然音を聴くと自らの持つその「ゆらぎ」が共鳴して自律神経が整えられ、その結果として、精神が安定する。UNAMAS Label 代表の Mick Sawaguchi が自ら純粋な自然の音をハイレゾ・サラウンド録音してきたこれまでの音源からテーマ別に構成したヒーリングアルバム。

雨音

弱い雨でも、強い雨でも降り方は一定ではなく、強くなったり弱くなったり絶えず変化しており、典型的な「1/f ゆらぎ」を持った「音」であるが、激しすぎると逆に不安感がでてくるため、しとしとと降る雨、中程度の雨音にした。雨の降る夜には不思議と気持ちが落ち着き、読書しやすくなったり、安眠できるといった経験をお持ちの方もおられるだろう。雨の音にはこのような効果があるのだ。

UNAHQ 4008 Nature Whisper-Wave Mick Sawaguchi

波音

浪の音にもいろいろあるのだが、特に砂浜に寄せては繰り返す波の音は、とても優しい音色を持っている。これも毎回同じようできてよく聴くと一つの波ごとに違っている。また、波の音は、母親の胎内の音によく似ているといわれている。そのため、波の音を聞くことで母親の胎内回帰をしたような安心感を覚えリラックスできるとも言われている。ここでは国内外で録音した異なる砂浜が見せる様々な表情とともにリラックスして欲しい。